

Dell™ PowerVault™  
Data Protection Solution  
の『クイックスタートガイド』

# メモ、注意、警告



**メモ**：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



**注意**：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。



**警告**：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

---

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2007 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、PowerEdge、PowerVault および Dell OpenManage は Dell Inc. の商標です。Intel は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft、Windows、SQL Server および Windows Server は米国その他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

本書では、必要に応じて上記以外の商標や会社名が使用されている場合がありますが、それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

# 目次

1	はじめに	7
	はじめに	7
	サポートされているシステムの情報	7
	PowerVault システムのモデルを確認 できる場所	8
	サポート文書とソフトウェアアッ プデートの入手	9
	DPM の前提条件	11
	ラックへの取り付け	11
	システムの接続と電源の投入	12
	キーボード、ビデオモニター、およびマ ウスを使用したシステムの設定	12
	デフォルトの管理者ユーザー名とパスワ ードの入力	13
	管理者パスワードの変更	13
	ネットワーク設定	14
	ネットワークのケーブル接続と設定	14
	DHCP を使用した TCP/IP の設定 (デフォルト設定)	14
	静的 IP アドレスを使用した TCP/IP の設定	15
	コンピュータ名の変更	16
	ドメインメンバーシップ	17
	MUI を使用したシステムのローカラ イズ	19

2	システムのリモート設定	21
	<b>特殊管理コンソール (SAC)</b>	21
	SAC コマンドプロンプトへのアクセス	22
	リモートデスクトップ接続	24
	リモート Web 管理	24
	<b>Dell Remote Access Controller (DRAC)</b>	25
	<b>ベースボード管理コントローラ (BMC)</b>	25
3	DPM の設定	27
	<b>設定ウィザードの実行</b>	27
	<b>Microsoft Data Protection Manager</b>	
	ミニセットアップ	32
	<b>DPM 記憶域プールの設定</b>	33
	<b>確認</b>	35
4	ライセンス	37
	<b>DPM ライセンス</b>	37
	<b>Windows Storage Server 2003 R2 x64</b>	
	<b>のライセンス</b>	38
5	DPM の導入	39
	<b>保護されるシステムの前提条件ソフ</b>	
	<b>トウェアのインストール</b>	39
	<b>エージェントの導入</b>	39
	<b>サーバーの保護</b>	40
	<b>詳細設定</b>	40

6	DPM とテープデバイス	41
	テープドライブとテープライブラリの取り付け	41
	DPM でテープドライブとテープライブラリを使用する方法	41
7	Dell OpenManage™ Server Administrator のインストール	43
	概要	43
	Server Administrator のインストール	44
8	ソフトウェアのアップデート	45
	PowerVault システムのアップデート	45
	サーバーアップデートユーティリティの使い方	45
	Dell アップデートパッケージの使い方	45
	OS のアップデート	46
	DPM のアップデート	46

9	困ったときは	47
	デルサポート	47
	ハードウェアの問題	47
	ソフトウェア /DPM の問題	47
	<b>PowerVault Data Protection Solution</b>	
	ウィザードのトラブルシューティング	47
	その他のマニュアルとリソース	48
	Microsoft 関係の情報	48
	Dell ハードウェア	48
	Dell ソフトウェア	49
	索引	51

# はじめに

## はじめに

Dell™ PowerVault™ Data Protection Solution は、導入が迅速かつ単純に行えるように設定済みです。お使いの IT 環境独自の設定も一部あるため、初めて使用する段階でそれらを入力する必要があります。本書では、お使いの特定の IT 環境に合わせてシステムを設定するのに必要な情報を提供します。



**メモ：**システムを導入する前に、最新情報がないかどうか、Dell PowerVault Data Protection Solution の『アップデート情報』を参照してください。



**メモ：**本書で言及されているマニュアルについては、support.dell.com で Dell PowerVault Data Protection Solution の『クイックリファレンスガイド』を参照してください。

## サポートされているシステムの情報

PowerVault Data Protection Solution は Microsoft® System Center Data Protection Manager (DPM) 2007 に基づいており、DPM 2007 は Dell PowerVault システム上で実行できるように設定済みです。デルからのサポートが必要な時、ハードウェアの増設時、または PowerVault Data Protection Solution ソフトウェアの再インストール時には、PowerVault システムのどのモデルかを確認しておくことが大切です。Dell OpenManage™ のシステム管理アプリケーションは、お使いのシステムのモデル情報を認識し、レポートします。

**表 1-1. PowerVault Data Protection Solution とシステムのモデル**

Data Protection Solution	システムのモデル
PowerVault DP100	PowerVault 100
PowerVault DP500	PowerVault 500
PowerVault DP600	PowerVault 600

PowerVault Data Protection Solution の名前は、システムの前面にあります。

図 1-1 PowerVault Data Protection Solution タワーシステム



図 1-2 PowerVault Data Protection Solution ラックシステム



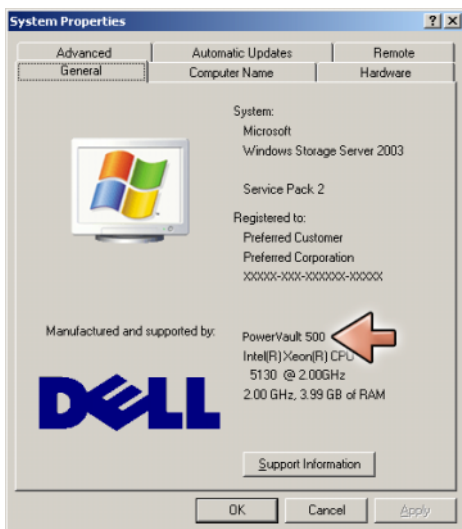
## PowerVault システムのモデルを確認できる場所

PowerVault システムのモデルは、次の場所で確認できます。

- BIOS の起動および設定画面
- OpenManage™ Server Administrator
- OpenManage™ IT Assistant
- OS の **システムのプロパティ** ウィンドウ (図 1-3 を参照)



図 1-3 システムのプロパティウィンドウでの PowerVault システムのモデル確認



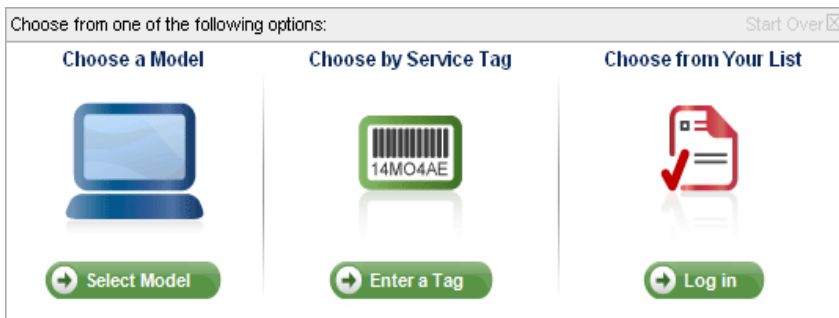
## サポート文書とソフトウェアアップデートの入手

お使いの PowerVault システムについて、以下を含む追加のマニュアルまたはソフトウェアのアップデートを入手するには、[support.dell.com](http://support.dell.com) にアクセスしてください。

- BIOS のアップデート
- PowerVault システムと内蔵周辺機器のファームウェアのアップデート
- デバイスドライバ

お使いの PowerVault システムのモデル（PowerVault 500 など）を選択することで、システムに該当するマニュアルやソフトウェアのアップデートが見つかります。次に、モデルまたはサービスタグを使うか、またはカスタマイズされたシステムのリストを見て、お使いのシステムのモデルを選択してください。


図 1-4 support.dell.com 経由のモデルの選択




## モデルによる選択

- 1 **Select Model**（モデルを選択）をクリックします。
- 2 **Product Family**（製品シリーズ）の下で、**Select Servers, Storage and Networking**（サーバー、ストレージ、およびネットワークを選択する）をクリックします。
- 3 **Product Line**（製品ライン）の下で、**PowerVault Storage**（PowerVault ストレージ）をクリックします。
- 4 お使いのシステムのモデルを選択します。

## サービスタグによる選択

 **メモ**：サービスタグとは、システムの側面または背面に貼付されているラベルのことで、バーコードと英数文字が記載されています。お使いのシステムのサービスタグを入力すると、システムのモデルが自動的に識別されます。

 **メモ**：**support.dell.com** を使用する際には、この方法をお勧めします。

- 1 **Enter a Tag**（タグを入力する）をクリックします。
- 2 サービスタグを入力して、**Go** をクリックします。

## リストから選択する

**support.dell.com** の **Your List**（マイリスト）機能を使用すれば、デルから購入したシステムのリストを維持することができます。アカウントを作成し、お使いのシステムのサービスタグを入力したら、そのリストからモデルを選択できます。

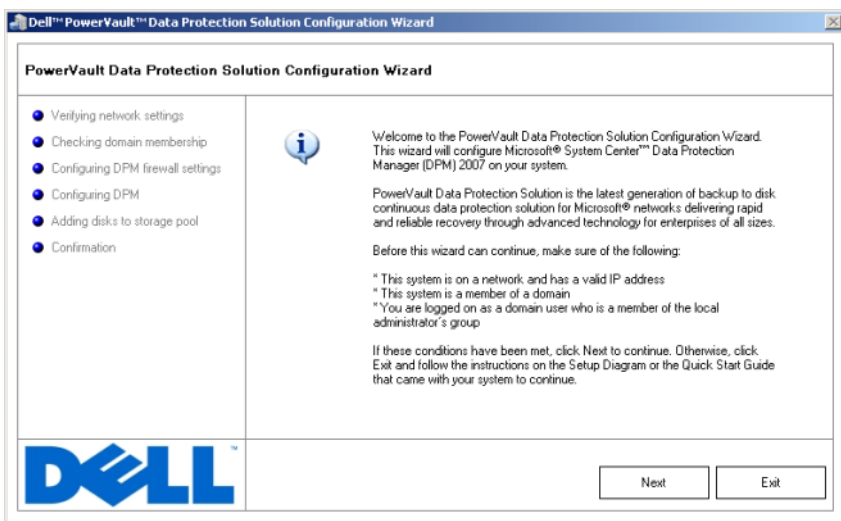
# DPM の前提条件

Microsoft® System Center Data Protection Manager (DPM) 2007 を初めて実行する前に、次の前提条件を満たしている必要があります。

- システムはネットワークに接続され、有効な IP アドレスを持っている必要があります。
- システムはドメインのメンバーである必要があります。
- ユーザーはドメインユーザーとしてログオンしている必要があります。また、そのドメインユーザーはローカル Administrator グループのメンバーである必要があります。

最初のログインで、PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードが自動的に起動します。上記の前提条件を満たすには、ウィザードを終了してシステムを設定します。本書の以下の各項目では、それらの作業に役立つ情報を提供します。

**図 1-5 PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードの初期画面**



## ラックへの取り付け

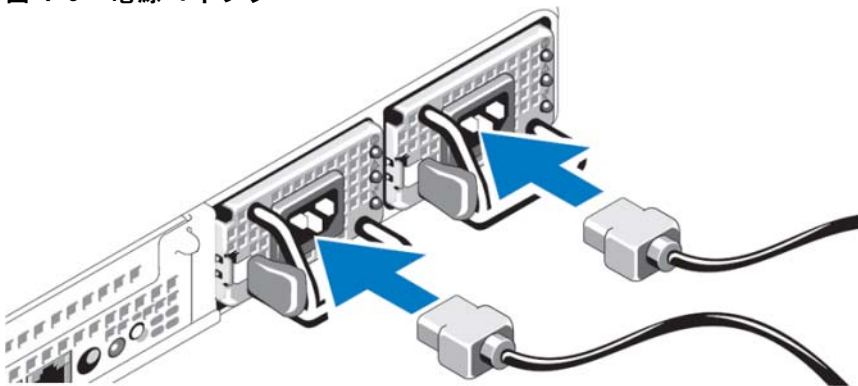
ラックへの取り付けが可能なシステムの場合、システムをラックに取り付ける方法については、ラックに付属の『ラック取り付けガイド』を参照してください。

# システムの接続と電源の投入

**メモ**：PowerVault Data Protection Solution の信頼性と可用性を最大限に高めるには、システムを無停電電源装置（UPS）に接続してください。

システムに電源コードを接続します。電源コードのもう一方の端をアースされた電源コンセントまたは UPS（無停電電源装置）や配電装置（PDU）などの電源に接続します。システムのコネクタについては、お使いのシステムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。

図 1-6 電源コネクタ

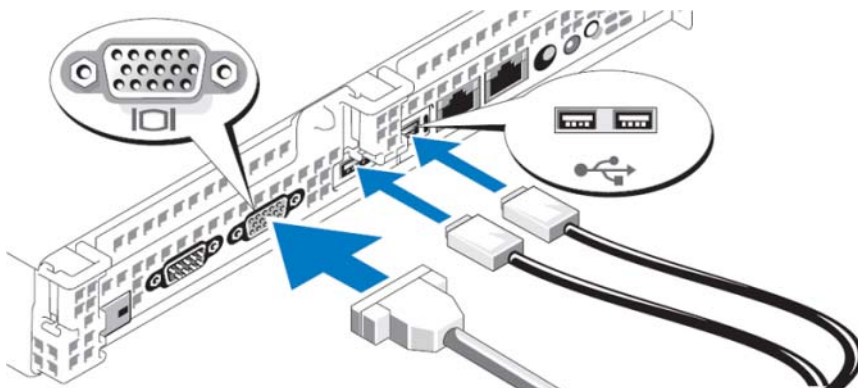


## キーボード、ビデオモニター、およびマウスを使用したシステムの設定

- 1 キーボード、ビデオモニター、およびマウスをシステムに接続します。  
システムのコネクタについては、お使いのシステムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。
- 2 電源ボタンを押して、システムの電源を入れます。
- 3 システムにログオンします。


**メモ**：システムのセットアップをリモートで行う場合は、21 ページの「システムのリモート設定」を参照してください。次に、本項に戻って以下の手順を完了します。

図 1-7 キーボード、ビデオモニター、およびマウスのシステムへの接続



## デフォルトの管理者ユーザー名とパスワードの入力

はじめてシステムにログインするには、管理者ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。お使いのシステムのデフォルトの管理者ユーザー名は **administrator** で、デフォルトのパスワードは **storageserver** です。

 **メモ**：デフォルトパスワードは直ちに変更して、システムを安全な状態に保ちます。

## 管理者パスワードの変更

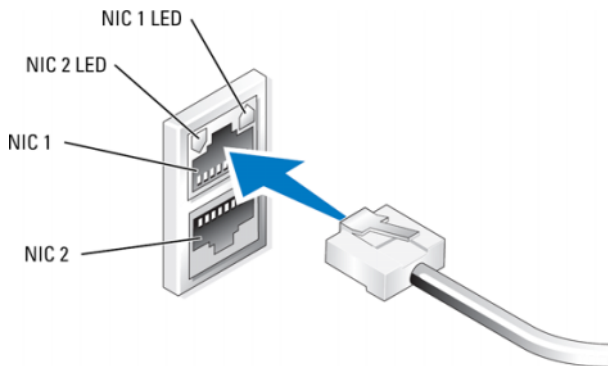
- 1 **スタート** をクリックし、**管理ツール? コンピュータの管理** の順にクリックします。
- 2 **コンピュータの管理** ウィンドウの **コンピュータの管理 (ローカル)** ツリーで **ローカルユーザーとグループ** を展開し、**ユーザー** を選択します。
- 3 右ウィンドウペインで **Administrator** を右クリックし、**パスワードの設定** を選択します。
- 4 **Administrator のパスワードの設定** ウィンドウで、**続行** をクリックします。
- 5 パスワードの入力と確認入力を各フィールドで行い、**OK** をクリックします。
- 6 **コンピュータの管理** ウィンドウを閉じます。

# ネットワーク設定

## ネットワークのケーブル接続と設定

- 1 イーサネットケーブルの一方の端をシステム背面の RJ-45 ネットワークインターフェースコネクタ (NIC) (図 1-8 を参照) の 1 つに接続します。NIC の位置については、『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。
- 2 イーサネットケーブルのもう一方の端を機能しているイーサネットジャックに接続します。
- 3 NIC のコネクタ LED が点灯していることを確認します (図 1-8 を参照)。LED が緑色に点灯していれば、接続は正常です。LED が黄色に点滅している場合は、データの転送が正常に行われています。
- 4 LED が点灯していない場合は、イーサネットケーブルの両端が NIC コネクタとイーサネットジャックに正しく接続されていることを確認します。

図 1-8 NIC コネクタ



**メモ**：NIC コネクタの物理的な向きは、システムによって異なる場合があります。詳細については、お使いのシステムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』を参照してください。

## DHCP を使用した TCP/IP の設定 (デフォルト設定)

お使いのシステムでは、ダイナミックホスト設定プロトコル (DHCP) がデフォルトで有効に設定されています。ネットワークが DHCP サーバーで設定されていない場合は、15 ページの「静的 IP アドレスを使用した TCP/IP の設定」に進んで、システムの静的 IP アドレスを設定します。次の手順に従って、システムの DHCP 設定を確認します。

**メモ**：この手順を実行するには、ローカルコンピュータの Administrator グループまたは Network Configuration Operator グループのメンバーである必要があります。

- 1 **スタート** をクリックし、**設定** → **コントロールパネル** → **ネットワーク接続** の順にクリックします。
  - 2 設定するネットワーク接続を右クリックし、次に **プロパティ** をクリックします。
  - 3 **全般** タブ（ローカルエリア接続の場合）または **ネットワーク** タブ（その他すべての接続の場合）で、**インターネットプロトコル (TCP/IP)** をクリックします。次に、**プロパティ** をクリックします。
  - 4 **IP アドレスを自動的に取得する** が選択されていることを確認し、**OK** をクリックします。
- 16 ページの「コンピュータ名の変更」に進みます。

## 静的 IP アドレスを使用した TCP/IP の設定

ネットワーク上で DHCP が設定されていないか、または静的 IP アドレスが望ましい場合は、次の手順が必要です。



**メモ**：この手順を実行するには、ローカルコンピュータの Administrator グループまたは Network Configuration Operator グループのメンバーである必要があります。

- 1 **スタート** をクリックし、**設定** → **コントロールパネル** → **ネットワーク接続** の順にクリックします。
- 2 設定するネットワーク接続を右クリックし、次に **プロパティ** をクリックします。
- 3 **全般** タブ（ローカルエリア接続の場合）または **ネットワーク** タブ（その他すべての接続の場合）で、**インターネットプロトコル (TCP/IP)** をクリックします。次に、**プロパティ** をクリックします。
- 4 次の **IP アドレスを使用する** をクリックします。
- 5 ローカルエリア接続を設定する場合は、**IP アドレス**、**サブネットマスク**、および **デフォルトゲートウェイ** の各フィールドに適切な情報を入力します。アドホック接続を設定する場合は、**IP アドレス** フィールドに IP アドレスを入力します。
- 6 次の **DNS サーバーのアドレスを使用する** をクリックします。
- 7 **優先 DNS サーバー** と **代替 DNS サーバー** フィールドに、プライマリおよびセカンダリ DNS サーバーアドレスを入力します。
- 8 必要な場合は、追加の IP アドレスを設定します。不要な場合は次の手順へ進みます。
  - a **詳細** をクリックします。
  - b **IP 設定** タブの **IP アドレス** で、**追加** をクリックします。
  - c **TCP/IP アドレス** で、該当するフィールドに IP アドレスとサブネットマスクを入力し、**追加** をクリックします。
  - d 追加の IP アドレスのそれぞれについて、手順 b および手順 c を繰り返します。

- 9 必要な場合は、追加のデフォルトゲートウェイを設定します。不要な場合は次の手順へ進みます。
  - a **IP 設定** タブの **デフォルトゲートウェイ** で、**追加** をクリックします。
  - b **TCP/IP ゲートウェイアドレス** の **ゲートウェイ** フィールドで、デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。
  - c デフォルトルートメトリックを手動で設定するには、**自動メトリック** チェックボックスのチェックを外し、**メトリック** フィールドにメトリックを入力します。
  - d **追加** をクリックします。
  - e 必要な場合は、各デフォルトゲートウェイについて手順 b から手順 d を繰り返します。
- 10 必要な場合は、この接続にカスタムメトリックを設定します。不要な場合は手順 11 へ進みます。
- 11 **自動メトリック** チェックボックスのチェックを外します。
- 12 **インターフェイスメトリック** フィールドに適切なメトリックを入力します。
- 13 **OK** をクリックします。

## コンピュータ名の変更

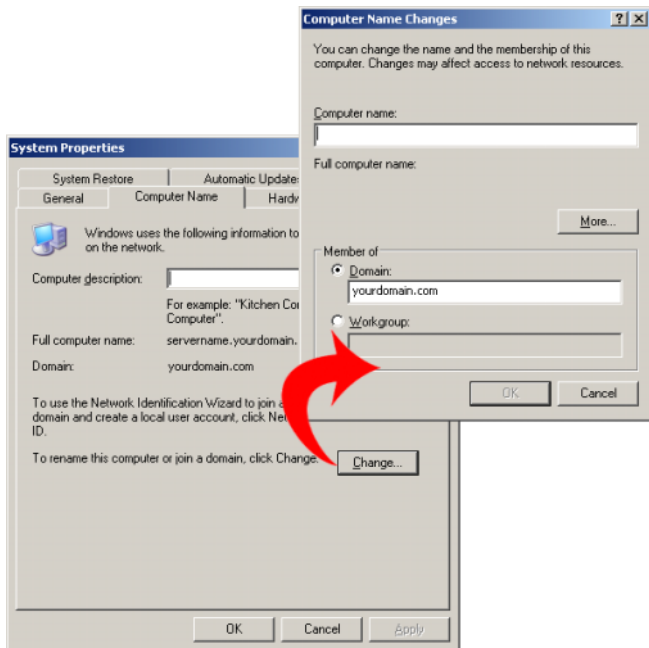
- 1 **マイコンピュータ** を右クリックし、**プロパティ** をクリックします。**システムのプロパティ** ダイアログボックスが表示されます。
- 2 **コンピュータ名** タブで、**変更** をクリックします。**コンピュータ名の変更** ダイアログボックスの **コンピュータ名** フィールドに、システムに付ける名前を入力します。**OK** をクリックします。
- 3 **OK** をクリックして、**システムのプロパティ** ウィンドウを閉じます。
- 4 画面の指示に従って、システムを再起動します。



# ドメインメンバーシップ

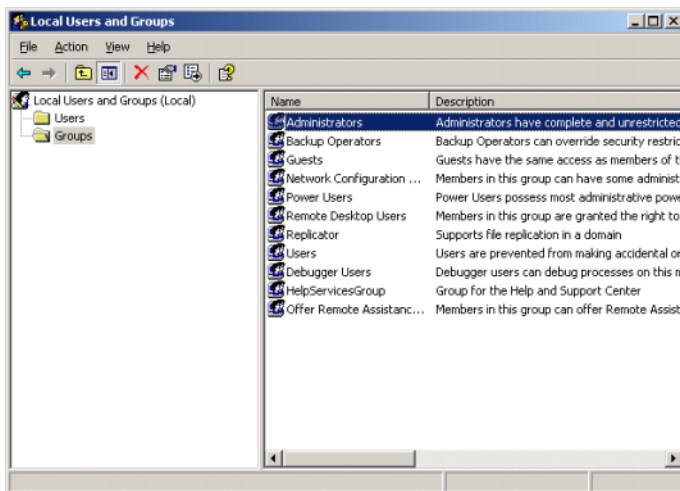
- 1 **マイコンピュータ** を右クリックし、**プロパティ** をクリックします。**システムのプロパティ** ダイアログボックスが表示されます。
- 2 **コンピュータ名** タブで、**変更** をクリックします。**コンピュータ名の変更** ダイアログボックスで、**ドメイン** を選択し、テキストボックスにドメイン名を入力し、**OK** をクリックします (図 1-9 を参照)。
- 3 ドメインユーザー名とパスワードを入力します (ネットワーク管理者に連絡して、ドメインに参加する許可を得てください)。
- 4 変更はシステムの再起動後に有効になります。ただし、再起動は次の手順を完了するまで待ってください。手順 3 で使用したアカウントに管理者特権がある場合は、手順 8 へ直接進みます。管理者特権がない場合は、以下の手順を完了して、システムのローカル Administrator グループにドメインユーザーを追加します。
- 5 **スタート** → **ファイル名を指定して実行** の順にクリックし、`lusrmgr.msc` と入力し、**OK** をクリックします。
- 6 **グループ** をクリックし、**Administrators** をダブルクリックします。次に、**追加** をクリックします (を参照) ● 図 1-10

図 1-9 ドメインへの参加



- 7 DOMAIN\ユーザー名 の形式でユーザー名を入力し、指示に従ってドメインユーザーを管理者グループに追加します。
- 8 システムを再起動します。

図 1-10 ローカル Administrators グループへのユーザーの追加



## MUI を使用したシステムのローカライズ

多言語ユーザーインターフェース (MUI) により、システムは OS メニュー、ダイアログ、およびヘルプファイルを複数の言語で表示することができます。

お使いのシステムには Windows Storage Server 2003 R2 x64 Edition With SP2 がインストールされ、設定済みです。また、MUI は購入時に選択した言語に設定済みです。別の言語を使用するように設定する場合を除き、作業は必要ありません。デルでサポートされている別の言語に変更するには、その言語用の MUI システムファイルをインストールする必要があります。PowerVault Data Protection Solution の『Recovery Guide』(リカバリガイド) の「OS のローカライズ」を参照してください。

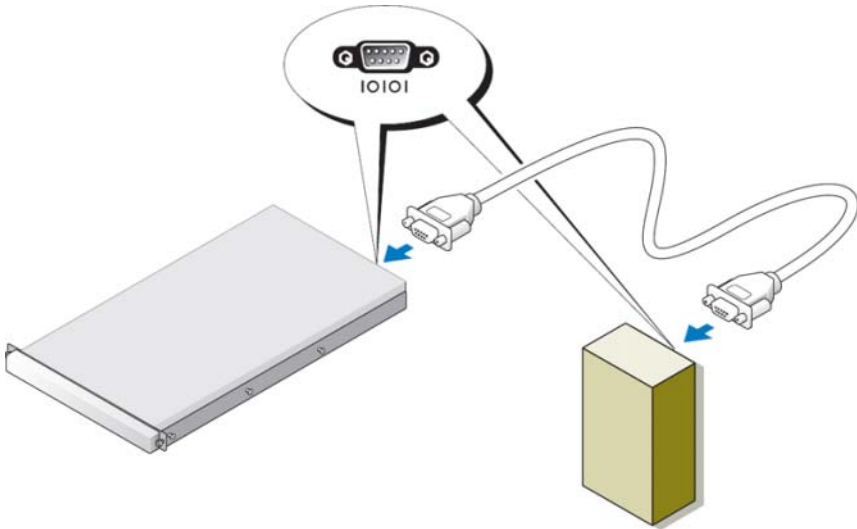


# システムのリモート設定

## 特殊管理コンソール (SAC)

**メモ**：SAC を使用するには、クライアントシステムと PowerVault ストレージシステムのシリアルポートを直接接続するために、両端がメスのシリアルコンソールケーブルが必要です (図 2-1 を参照)。

図 2-1 コンソールケーブルを使用して SAC に接続する方法



**メモ**：クライアントシステムのターミナルエミュレーションソフトウェアが、115200 ボー、8 データビット、パリティなし、1 ストップビットに設定されていることを確認します。

非 DHCP 環境では、SAC 内のコマンドラインインタフェース (CLI) サポートを使用し、Windows Storage Server 2003 を実行しているシステムに (シリアルポート経由で) 接続し、次にネットワークを設定します。SAC を使用してネットワークを設定した後で、GUI にリモートでアクセスし、IP アドレスを使用して Windows Storage Server の設定と管理を行うことができます。そのためには、次の手順を実行する必要があります。

- 1 SAC コマンドプロンプトにアクセスする。
- 2 システムの IP アドレスとドメインネームシステム (DNS) を設定する。

## SAC コマンドプロンプトへのアクセス

SAC は、Windows Storage Server 2003 によってホストされているプライマリ緊急管理システム (EMS) CLI 環境です。CLI 環境とは別であり、提供する機能も異なります。

SAC は、システムの電源を入れた直後から使用できます。SAC を使用して、通常のシステム操作時にサーバーの管理を行い、Windows Storage Server 2003 のコンポーネントのほとんどを設定することができます。また、システムがセーフモードで動作している時や、GUI モードのセットアップ中にも SAC は使用できます。EMS が有効な場合は、カーネルが実行されている限り、SAC はアクティブなままです。

システムとポータブルシステムの間にシリアルケーブルを使用し、ハイパーターミナルなどのターミナルエミュレーションプログラムして、SAS にアクセスできます。



**メモ**：EMS にリモートでアクセスするには、ターミナルエミュレーション用に互換性のあるクライアントソフトウェアを使用していることを確認します。詳細については、[www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=66418>) で「Selecting client terminal software for Emergency Management Services」(EMS 用のクライアントターミナルソフトウェアの選択) を参照してください。

### SAC コマンドプロンプトにアクセスするには、以下の手順を実行します。

- 1 ターミナルエミュレーションプログラムを起動し、シリアルポートに接続します。
- 2 システムの電源をオンにします。
- 3 EMS が起動したら、SAC プロンプトで `cmd` と入力し、**Enter** を押して、コマンドプロンプトウィンドウを作成します。
- 4 コマンドプロンプトの出力を表示するためにチャンネルウィンドウを切り替えるには、`ch -sn cmd0001` と入力し、**Enter** を押します。
- 5 Administrator としてログオンします。



**メモ**：お使いのシステムのデフォルトパスワードは、`storageserver` です。

SAC の使い方の詳細については、[www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) で『Using Emergency Management Services』(EMS の使い方) を参照するか、または Windows Storage Server 2003 のヘルプを参照してください。

## IP アドレスと DNS の設定

SAC コマンドプロンプトに接続した後で、**netsh** を使用してシステムのネットワークアドレス、デフォルトゲートウェイ、および **DNS** を設定できます。これらの設定を終えたら、サーバーにリモートで接続し、GUI を使用してその他の初期設定と管理タスクを完了できます。

静的 IP アドレスを設定するには、IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを知っておく必要があります。

- 1 次のように入力して、使用可能なインタフェースのリストを取得します。

```
netsh interface ip show interface
```

- 2 **Connected** (接続済み) として表示されるインタフェースを確認します。
- 3 次のコマンドを入力して、必要なインタフェースの IP アドレスを設定します (コマンドは改行を入れずに 1 行に入力します)。

```
netsh interface ip set address name= インタフェース source=
static addr=IP アドレス mask= サブネットマスク gateway= ゲート
ウェイアドレス
```

- 4 次のコマンドを入力して、DNS アドレスを設定します (コマンドは改行を入れずに 1 行に入力します)。

```
netsh interface ip set dns name=インタフェース
source=static addr=DNS アドレス
```



**メモ**：スペースが含まれているインタフェース名を使用する場合は、"local area connection" のようにテキストを引用符で囲みます。

**Netsh** コマンドの詳細については、[www.microsoft.com](http://www.microsoft.com)

(<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=66414>) で『Scripting Tools』(スクリプトツール) を参照するか、または Windows Storage Server 2003 のヘルプを参照してください。

## リモートデスクトップ接続

IP アドレスの設定が済んだら、リモートデスクトップ接続を使用することで、Windows Storage Server 2003 を実行しているシステムに Windows ベースの別のシステムからアクセスできます。

Management Station からのアクセスをセットアップするために、リモートデスクトップ接続を作成し、デスクトップに保存します。手順は次のとおりです。

- 1 **スタート** → **ファイル名を指定して実行** の順にクリックします。
- 2 **ファイル名を指定して実行** ダイアログボックスに `mstsc` と入力し、**OK** をクリックします。
- 3 **リモートデスクトップ接続** ダイアログボックスにシステム名またはシステムの IP アドレスを入力し、**オプション** をクリックします。
- 4 **接続設定** ウィンドウで、**名前を付けて保存** をクリックします。
- 5 **名前を付けて保存** ダイアログボックスに、接続に使用するファイル名を入力します。拡張子は `.rdp` のままにしておきます。
- 6 **保存する場所** ドロップダウンメニューで **デスクトップ** を選択し、**保存** をクリックします。

リモートデスクトップ接続の設定の詳細については、[www.microsoft.com](http://www.microsoft.com) (<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=69058>) で『Remote Desktop Connection』（リモートデスクトップ接続）を参照するか、または Windows Storage Server 2003 のヘルプを参照してください。

## リモート Web 管理

Windows Storage Server 2003 を実行しているサーバーへは、クライアントシステムからウェブブラウザを使用してリモートでアクセスできます。Windows OS と Internet Explorer 6（またはそれ以降）を実行しているシステムの場合は、Remote RDP Client ActiveX コントロールを使用してください。ActiveX コントロールは、リモートデスクトップ接続、MSTSC と同義語です。



# Dell Remote Access Controller (DRAC)

Dell Remote Access Controller 5 (DRAC 5) は、Dell システムのリモート管理、クラッシュしたシステムのリカバリ、および電源制御の機能を提供するハードウェアおよびソフトウェアのシステム管理ソリューションです。DRAC 5 は（取り付けられている場合）、システムのベースボード管理コントローラ (BMC) と通信することで、電圧、温度、侵入、およびファンの速度に関する警告またはエラーを通知する E-メールアラートを送信するように設定できます。また、システムクラッシュの原因の診断に役立つように、DRAC 5 にはイベントデータおよび最新のクラッシュ画面も記録されます (Windows を実行しているシステムのみ)。DRAC 5 には独自のマイクロプロセッサとメモリが搭載されており、電源は取り付けられているシステムから取るようになっています。DRAC 5 は、出荷時にシステムに取り付け済みの場合と、キット内に別途提供されている場合があります。

DRAC 5 の使用を開始する前に、Dell Remote Access Controller 5 (DRAC 5) の『ユーザーズガイド』の「Installing and Setting up the DRAC 5」(DRAC 5 の取り付けとセッティング) を参照してください。

## ベースボード管理コントローラ (BMC)

ベースボード管理コントローラ (BMC) は、システム基板上のさまざまなセンサーを使用して、システムに重大なイベントが発生していないか監視し、いずれかのパラメータが既定のしきい値を超えるとアラートを送信し、イベントを記録します。BMC は業界標準のインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (IPMI) 仕様をサポートしており、システムの設定、監視、およびリカバリをリモートから行うことができます。

詳細については、ベースボード管理コントローラユーティリティの『ユーザーズガイド』を参照してください。



# DPM の設定

## 設定ウィザードの実行

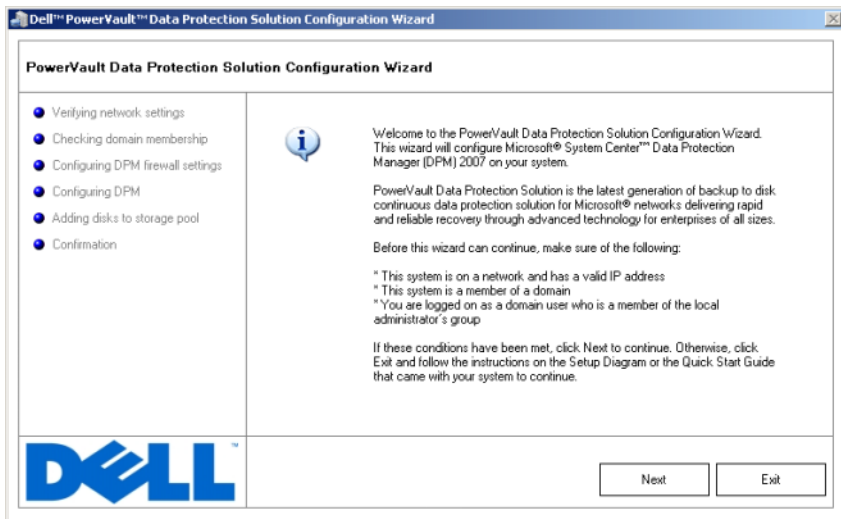
PowerVault Data Protection Solution (DPS) 設定ウィザードは、DPM を実行できるようにシステムを設定するために使用します。このウィザードは、システムにログオンすると自動的に起動します。または、デスクトップで **PowerVault DPS ウィザード** アイコンをダブルクリックして起動することもできます。

ウィザードによって行われる操作は以下のとおりです。

- システム、ソフトウェア、およびネットワークの前提条件を確認する。
- ユーザーアカウントの設定を確認する。
- システムのファイアウォールを設定する。
- DPM ミニセットアップを起動する。
- 使用可能なディスクを DPM 記憶域プールに追加する。

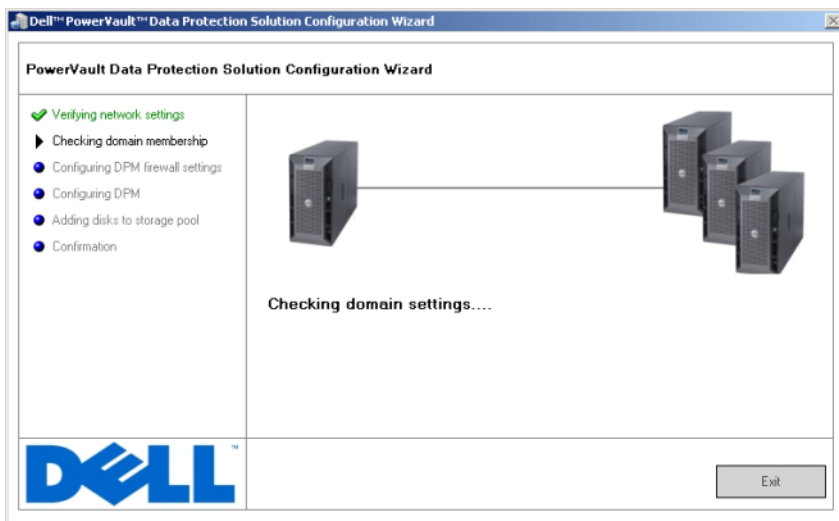
17 ページの「ドメインメンバーシップ」の手順 3 で使用したドメインユーザーアカウントを使用してシステムにログオンします。ウィザードが自動的に実行され、11 ページの「DPM の前提条件」で説明した前提条件が記された初期画面が表示されます。

図 3-1 PowerVault DPS 設定ウィザードの初期画面



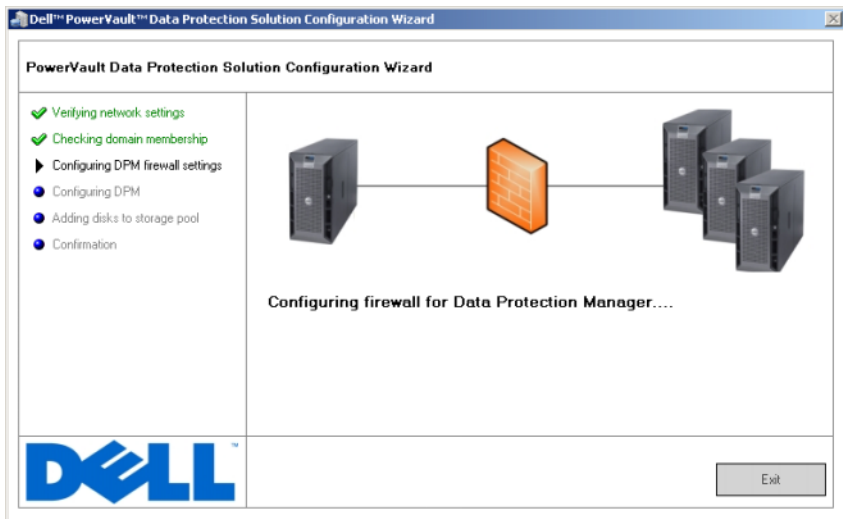
前提条件が満たされていることを確認してから、**Next**（次へ）をクリックして続行します。ウィザードによって DPM のネットワーク、ドメイン、およびユーザーアカウントの設定が確認されます。

図 3-2 前提条件の確認



設定が確認されると、Windows ファイアウォールが DPM 用に設定されます。この手順では、DPM 実行可能ファイル用のファイアウォール例外が作成され、Windows リモートプロシージャコール (RPC) および分散 COM (DCOM) 用の TCP ポート (ポート 135) が開かれます。ファイアウォールサービスが実行されていない場合、この手順は省略されます。

図 3-3 Windows ファイアウォールの設定



ファイアウォールの設定後に、Microsoft Data Protection Manager ミニセットアップウィザードが起動します。このウィザードは、システム上で DPM のセットアップを完了するために必要です。**次へ** をクリックして続行します。DPM ミニセットアップウィザードが完了するまで、PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードはバックグラウンドで待機します。

図 3-4 Microsoft Data Protection Manager ミニセットアップウィザードの起動



# Microsoft Data Protection Manager ミニ セットアップ

図 3-5 Microsoft Data Protection Manager ミニセットアップウィザード

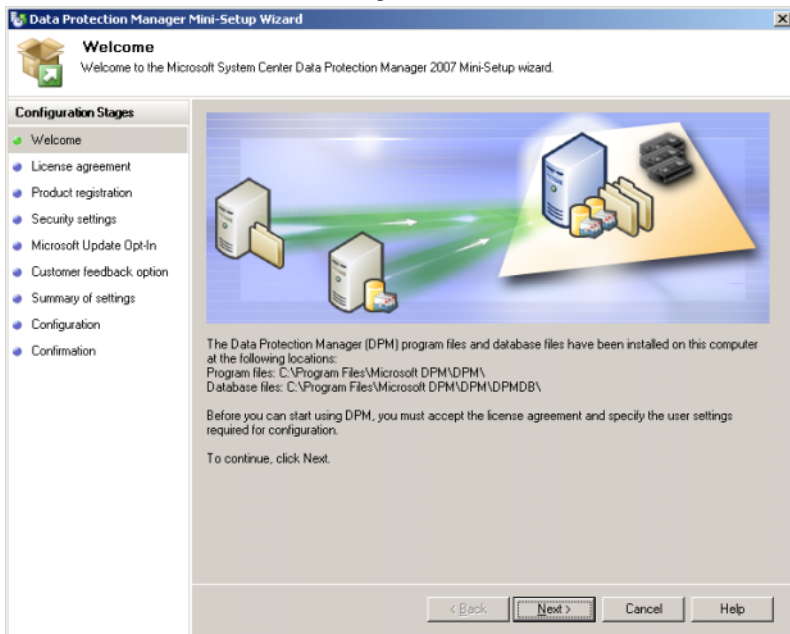


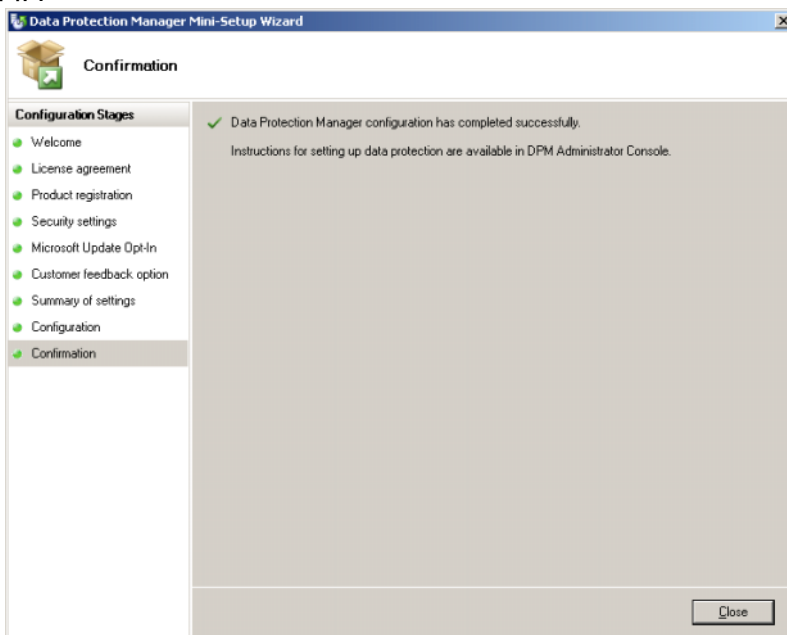
図 3-5 は DPM ミニセットアップウィザードの画面です。**次へ** をクリックして続行します。ウィザードのガイドに従って以下の手順を行います。

- **ようこそ**
- **ライセンス契約**：DPM ライセンス契約が表示されます。続行するには、ライセンス契約に同意する必要があります。
- **製品登録**：DPM のインストールと関連付けられているユーザー名と会社名の入力が求められます。
- **セキュリティ設定**：SQL サービスアカウント用のパスワードの入力が求められます。
- **Microsoft 更新オプション**：デルでは、最新の修正プログラム、セキュリティの修正プログラム、およびアップデートの自動更新を有効にすることをお勧めします。
- **カスタマフィードバックのオプション**：Microsoft カスタマエクスペリエンス向上プログラムへの参加が求められます。



- 設定の概要
- 設定：ユーザーから情報を収集した後で、設定が行われます。
- 確認

図 3-6 Microsoft Data Protection Manager ミニセットアップウィザードの確認画面

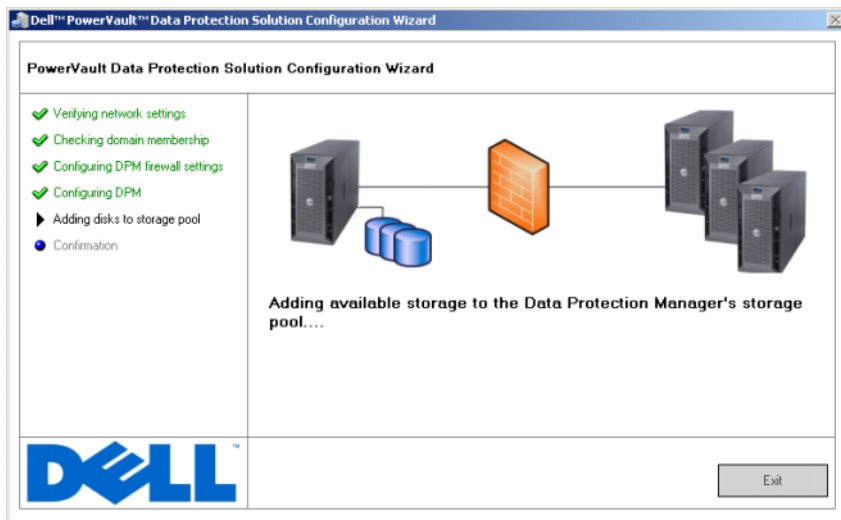


すべての質問に正しく回答して DPM ミニセットアップウィザードを完了したら、**閉じる**をクリックして PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードに戻ります。

## DPM 記憶域プールの設定

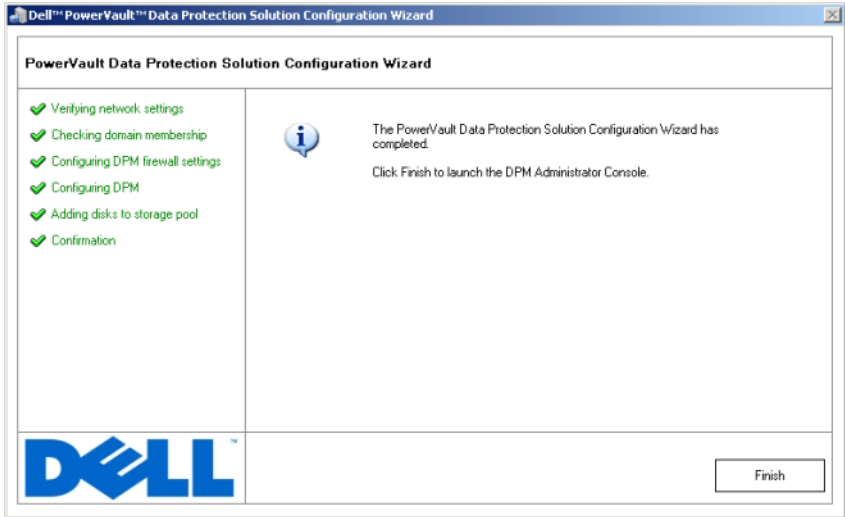
DPM ミニセットアップウィザードが正常に完了したら、PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードが再開し、使用可能な記憶域が DPM 記憶域プールに加えられます。DPM 記憶域プールは、ネットワーク内の管理対象サーバーを保護するために DPM が使用する記憶域の集まりです。記憶域プールの詳細については、『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』の「記憶域プールへのディスクの追加」を参照してください。

図 3-7 DPM 記憶域プールの設定



記憶域プールが正常に設定されると、手順が完了したことを示すメッセージが表示されま  
す。**完了** を選択すると、DPM 2007 管理者コンソールが起動します。DPM 管理者コン  
ソールを使用して、ネットワークからサーバーを追加します。詳細については、39 ペー  
ジの「DPM の導入」を参照してください。

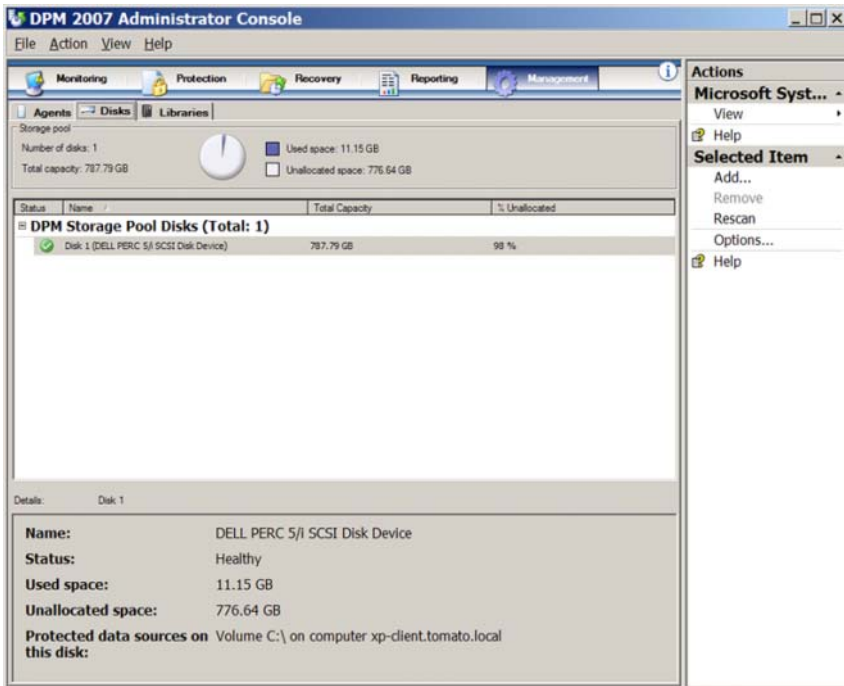
図 3-8 ウィザードの完了画面



## 確認

設定プロセスが正常に完了したことを確認するには、DPM 管理者コンソールの **管理** タブをクリックします。次に、**ディスク** タブを選択します。記憶域プールには、システム構成に応じて適切な数のディスクを追加する必要があります。

図 3-9 DPM 2007 管理者コンソール



# ライセンス

## DPM ライセンス

図 4-1 Certificate of Authenticity (COA) の例



DPM 2007 の Product Key（プロダクトキー）は、工場出荷時にシステムにインストールされています。Product Key（プロダクトキー）は、システムに付属のインストールメディアに含まれている Certificate of Authenticity（COA）に記載されています。この COA に記載されている Product Key（プロダクトキー）は、DPM 2007 の再インストール時に必要です。

DPM 2007 では、保護（管理）される各サーバーに Data Protection Management License（DPML）が必要です。DPML には、スタンダードなファイル保護用の **Standard**（S-DPML）と、サーバー上のアプリケーションとファイルを保護する **Enterprise**（E-DPML）の 2 種類があります。

お買い上げのシステムには 1 ライセンスの DPML が提供されています。御社の IT 環境で複数のシステムを保護するためにライセンスの追加が必要な場合は、デルの営業担当にお問い合わせください。

DPM ライセンスの詳細については、『System Center Data Protection Manager 2007 導入の計画』の「DPM ライセンス」を参照してください。

## Windows Storage Server 2003 R2 x64 のライセンス

図 4-2 システムに貼付された Windows COA の例



Windows Storage Server 2003 x64 R2 With SP2 の Product Key (プロダクトキー) は、工場出荷時にシステムにインストールされています。キーは、システムの上部パネルまたは側面パネルに貼られている COA に記載されています。この Product Key (プロダクトキー) を書き取り、安全な場所に保管してください。OS を再インストールする際に必要な場合があります。

# DPM の導入

DPM を使用してネットワーク内のシステム上のデータとアプリケーションを保護できるようになる前に、次の作業が必要です。

- 保護する各サーバーシステムに前提条件ソフトウェアをインストールします。
- 保護する各システムに DPM 保護エージェントを導入します。DPM を使用して保護する各システムにつき 1 本の DPM エージェントのライセンスが必要です。37 ページの「DPM ライセンス」を参照してください。
- DPM によってシステム上のどのシステム、データ、およびアプリケーションをバックアップするか、また、それらのシステムのバックアップ頻度を定義する 1 つまたは複数の保護グループを作成します。
- DPM 構成の詳細設定（オプション）を行います。

## 保護されるシステムの前提条件ソフトウェアのインストール

ネットワーク内の保護されるサーバー上に DPM 保護エージェントをインストールする前に、Windows Storage Server 2003 x64 Edition KB940349 の Microsoft Update をインストールします。このアップデートは、[support.microsoft.com](http://support.microsoft.com) で入手できます。アップデートは、システムに付属の Microsoft® System Center Data Protection Manager 2007 の再インストール用メディアにも収録されています。ディレクトリは `prereqs` です。アップデートをインストールするには、システム管理者のアカウントから `KB940349 executable (.exe)` をダブルクリックします。

## エージェントの導入

保護エージェントとは、保護されるデータに対する変更を記録し、保護されるサーバーから DPM サーバーに変更を転送するサーバーにインストールされているソフトウェアのことです。ネットワーク内のシステムにエージェントを導入する手順については、『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』の「保護エージェントのインストール」を参照してください。

# サーバーの保護

ネットワーク内の 1 台または複数のサーバーを保護するには、保護グループを作成する必要があります。保護グループとは、同じ保護構成を共有するデータソースの集まりです。『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』の「保護グループの作成」を参照してください。

## 詳細設定

仮想サーバーの保護を管理したり、エンドユーザー回復を有効にするなど、詳細な設定のトピックについては、『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』および『System Center Data Protection Manager 2007 Operations Guide』（操作ガイド）を参照してください。



## DPM とテープデバイス

PowerVault Data Protection Solution は、保護されるシステムの D2T (Disk-to-Tape) バックアップ、および長期保護用の D2D2T (Disk-to-Disk-to-Tape) アーカイブをサポートしています。『System Center Data Protection Manager 2007 導入の計画』の「ディスクとテープを組み合わせたバックアップソリューション」を参照してください。これらの機能を使用するには、システムにサポートされているテープドライブまたはテープライブラリを接続する必要があります。

サポートされているテープドライブ、自動ローダー、およびライブラリのリストは、PowerVault Data Protection Solution の『サポートマトリクス』を参照してください。

## テープドライブとテープライブラリの取り付け

システムにテープドライブまたはテープライブラリを取り付けるには、それらのコンポーネントのマニュアルを参照してください。必要なドライバをインストールし、必要に応じてデバイスのファームウェアをアップデートします。必要なドライバとファームウェアのバージョンについては、PowerVault Data Protection Solution の『サポートマトリクス』を参照してください。

## DPM でテープドライブとテープライブラリを使用する方法

DPM にテープドライブとライブラリを加えるには、『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』の「テープライブラリの構成」を参照してください。

Microsoft System Center Data Protection Manager 2007 サーバーに接続されているテープライブラリとスタンドアロンのテープドライブを管理する方法の詳細については、『System Center Data Protection Manager 2007 Operations Guide』(操作ガイド)の「テープライブラリの管理」を参照してください。このマニュアルには、定期メンテナンスについても説明されています。



# Dell OpenManage™ Server Administrator のインストール

## 概要

Dell OpenManage™ Server Administrator (OMSA) には、次の 2 つの形式で、総合的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションが備わっています。(1) 統合されたブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI)、および (2) OS を通じて使用するコマンドラインインターフェース (CLI)。OMSA は、システムをローカルでも (ネットワークを使用して) リモートでも管理できるように設計されています。

管理対象システムとは、システムの検出とポーリングによるステータスの確認が可能な、サポートされた機器またはエージェントが備わったシステムのことです。Management Station は、1 台または複数の管理対象システムを 1 箇所から集中的にリモートで管理するために使用します。

OMSA により、PowerVault Data Protection Solution にシステムとストレージ管理が提供されます。OMSA はシステムハードウェアと周辺機器に障害が発生していないかどうかを監視し、予想されるシステム障害について事前に警告します。また、OMSA の GUI を使用して、仮想ディスクや RAID を含め、ストレージサブシステムを設定することができます。

# Server Administrator のインストール

Server Administrator のインストール方法は複数あります。システムに付属の『Dell™ Systems Console and Agent CD』には、Server Administrator およびその他の管理対象システムのソフトウェアコンポーネントを、管理対象システムと Management Station の両方にインストール、アップグレードし、アンインストールするためのセットアッププログラムが用意されています。

詳細については、『Dell™ OpenManage Installation and Security User's Guide』（インストールとセキュリティに関するユーザズガイド）の「Setup and Administration」（セットアップと管理）を参照してください。



**メモ：** OMSA のインストール中は、Storage Services（記憶域サービス）オプションにチェックが入っていることを確認してください。

# ソフトウェアのアップデート

## PowerVault システムのアップデート

### サーバーアップデートユーティリティの使い方

Dell™ OpenManage™ Server Update Utility (SUU) は、システムに必要なアップデートを識別して適用する CD ベースのアプリケーションです。SUU は、お使いのシステムに現在インストールされているコンポーネントのバージョンを『Server Update CD』(support.dell.com から入手可能) に入っているアップデートコンポーネントと比較します。次にバージョン比較レポートが表示され、BIOS、ドライバ、およびファームウェアなどのコンポーネントをアップデートするオプションが示されます。

SUU の使い方の詳細については、Dell™ OpenManage™ Server Update Utility の『ユーザーズガイド』を参照してください。

### Dell アップデートパッケージの使い方

Dell アップデートパッケージ (DUP) は、標準パッケージ形式の内蔵型実行可能ファイルです。各アップデートパッケージは、システム上の 1 つのソフトウェアコンポーネント (特定のドライバなど) をアップデートするように設計されています。DUP は support.dell.com から入手できます。DUP を使用してシステムをアップデートする方法の詳細については、Microsoft Windows 用 Dell™ アップデートパッケージの『ユーザーズガイド』を参照してください。

## OS のアップデート

Windows Storage Server の最新のセキュリティパッチ、修正、アップデートについては、**update.microsoft.com** にアクセスして確認してください。Windows Server™ 2003 R2 x64 SP2 Edition に対するアップデートはすべて Windows Storage Server 2003 R2 x64 SP2 に適用されます。

## DPM のアップデート

DPM 2007 のアップデートについては、**update.microsoft.com** にアクセスして確認してください。

# 困ったときは

## デルサポート

PowerVault Data Protection Solution の詳細およびトラブルシューティングについては、[support.dell.com](http://support.dell.com) を参照してください。

## ハードウェアの問題

ハードウェアの問題については、システムに同梱されている PowerVault のハードウェア関連のマニュアルを参照してください。ハードウェア関連のマニュアルは、[support.dell.com](http://support.dell.com) にアクセスして参照することも可能です。

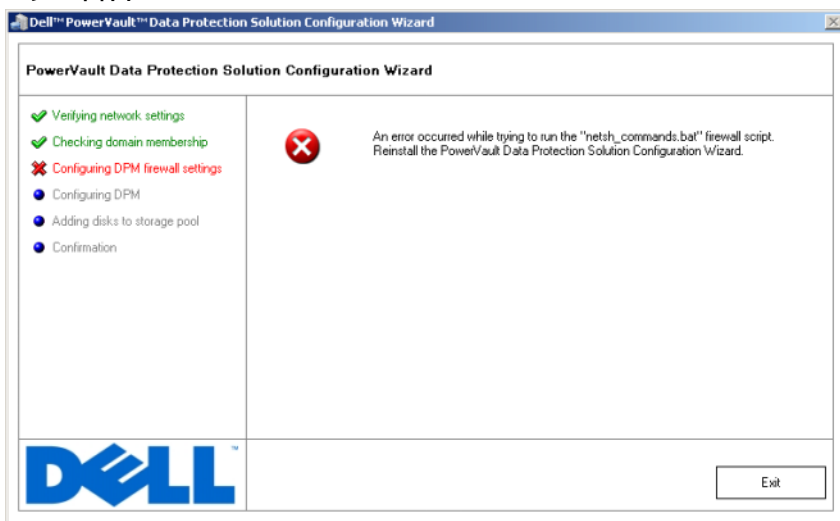
## ソフトウェア /DPM の問題

DPM の詳細とトラブルシューティングについては、『System Center Data Protection Manager 2007 Troubleshooting Guide』（トラブルシューティングガイド）を参照してください。

## PowerVault Data Protection Solution ウィザードのトラブルシューティング

PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードの実行中にエラーが発生すると、エラーの解決に必要な手順を示すエラーメッセージが表示されます。表示された指示に従い、続いて、システムのデスクトップ上のウィザードアイコンをダブルクリックしてウィザードを再開し、設定プロセスを続行します。

図 9-1 PowerVault Data Protection Solution の設定ウィザードのエラー画面



## その他のマニュアルとリソース

[support.dell.com](http://support.dell.com) にアクセスして、PowerVault Data Protection Solution の『クイックリファレンスガイド』を参照し、以下のマニュアルとリソースを確認してください。

### Microsoft 関係の情報

- 『System Center Data Protection Manager 2007 導入の計画』
- 『System Center Data Protection Manager 2007 の導入』
- 『System Center Data Protection Manager 2007 Operations Guide』（操作ガイド）

### Dell ハードウェア

- ベースボード管理コントローラユーティリティの『ユーザズガイド』
- Remote Access Controller 5 (DRAC 5) の『ユーザズガイド』
- PowerVault システムの『ハードウェアオーナーズマニュアル』
- PowerVault の『はじめに』



## Dell ソフトウェア

- PowerVault™ Data Protection Solution の『サポートマトリクス』
- 『OpenManage Installation and Security User's Guide』（インストールとセキュリティに関するユーザーズガイド）
- OpenManage™ Server Administrator の『ユーザーズガイド』
- OpenManage™ Server Update Utility の『ユーザーズガイド』
- Microsoft Windows 用 Dell アップデートパッケージの『ユーザーズガイド』
- 『Dell Systems Console and Agent CD』
- 『Dell Systems Build and Update Utility CD』
- 『Dell Systems Documentation CD』



# 索引

## D

Data Protection Manager

ミニセットアップウィザード, 32

Data Protection Solution

トラブルシューティング, 47  
設定ウィザード, 27, 47

DHCP, 22

DPM, 7, 28, 30, 32-33

ライセンス, 37  
前提条件, 11

DRAC, 25

リモートアクセス, 25

## I

IP アドレス

DHCP, 14

DNS, 23

静的, 15  
設定, 14

## M

MUI, 19

## O

OpenManage Server

Administrator (OMSA)  
インストール, 43

## S

SAC, 21-22

## U

UPS, 12

## Z

アップデート, 45

ウィザード, 11, 27, 29-30,  
32-33, 47

エージェント, 39

コンピュータ名, 16-17  
変更, 16

システムセンター, 7, 11, 39

テープデバイスとラ

イブラリ, 41

使い方, 41

取り付け, 41

- デフォルトパスワード , 22
  - 入力 , 13
  - 変更 , 13
- トラブルシューティング , 47
- ドメイン , 11
- ネットワーク
  - ケーブル接続 , 14
  - 設定 , 14
- ファイアウォール , 27, 29-30
- プラットフォーム , 25
- ヘルプ , 19, 47
- マニュアル , 9
- リモートアクセス , 25
- リモートデスクトップ
  - 設定 , 24
- ローカル Administrators, 17
- 管理者コンソール , 34, 36
- 記憶域プール , 33, 35
  - 設定 , 33
- 静的 IP, 15, 23
- 必要条件 , 11, 27-28
- 保護されるサーバー , 37, 39
- 保護グループ , 39-40